for you
ほーゆー
はちやが地域に
贈る広報誌
vol.
21
広報誌 for you 2014年 春号
発行：医療法人蜂友会 for you 編集部
医事課 伴、森（正）
秘書広報室 加集、谷、成瀬
サポートメンバー 看護部 和佐田
総務 藤川
CS課 柳野
発行日：2014年3月6日
ご意見をお寄せください。宛先はforyou@hachiya.or.jpまで。

～旅立ちの春～　村田先生、近藤先生ありがとう！

村田先生と近藤先生が今年の春、はちやを卒業することになりました。
村田先生は2004年より約10年間、近藤先生は2011年より約3年間、
はちや整形外科病院にてご活躍されました。両先生より最後のメッセージが届いています！

一杯のカップ麺

医療法人蜂友会 はちや整形外科病院 副院長　村田（むらた） 英明（ひであき） 先生

花園ラグビーに我が母校山口県立大津緑洋高校（旧大津高校）が12年ぶりに出場した。私は応援に行って、有らん限りの大声で選手を鼓舞し続けた。そして敗れて地べたにうずくまり、号泣する彼らを見て、若き日の故Y君とのほろ苦い記憶が蘇ってきた。

Y君は同級生である私にラグビーを導き、当時としてはまだ珍しかった筋トレを教えてくれた。ジョッキに生卵を10個入れて一気に飲み干すやり方は、映画『ロッキー』よりずっと前にY君に教えてもらった。Y君は障がい者で、体はガリガリにやせ細り、いつも体のどこかをけがしていたが、どんな時も笑顔を絶やしたことがない。Y君はラグビーが好きで一日中ラグビーのことを考えていた。『ラグビーは男として必要な心と体を鍛えてくれるような気がするんよ』といつも言っていた。筋トレも生卵もY君が自分の身体のハンデを克服するために、自主的に取り組んでやっていたことだった。練習日以外はいつもタックルの練習と称して、大きな松の木に身体ごと突進していくので、けがが耐えなかった。端正だった丸い坊ちゃん顔は度重なる鼻骨骨折で変形していくのがわかったが、Y君はうれしそうだった。

身体のハンデをもっているY君に与えられたポジションはウィングだった。足は速くはないけれど、相手との接触プレーがもっとも少ないという消極的理由からだった。試合になると相手チームはY君を狙ってキック攻撃をした。Y君にボールをとらせて、そこへタックルしてボール奪取する戦法だ。私たちはY君を守ることを最優先にした。Y君がボールを持つとすぐ走っていって、Y君を守ろうとした。『Y君は俺が守っちゃるけーの』と言うとY君は決まって『じゃかましい。そんなもんいるかい』と言ってうれしそうな顔をした。気性が激しいので、一度手にしたボールは絶対離さなかった。Y君の負けず嫌いと練習で見せる激しい気迫に誰もが一目を置くようになった。

毎年私たちが優勝を目指す大会の決勝戦前日のミーティングで先輩幹部のSさんが言った。『明日の試合は絶対に勝たなければならない。ウィングはFで行く』。つまりY君はメンバーからはずされたのだ。私たちはみなうつむいていた。Y君の顔が見られなかったのだ。チームの雰囲気を察した幹部のTさんが『村田はどう思っているんだ』とまっすぐなまなざしで言った。私は動揺した。F先輩は確かに足も速いし、トライをとる技術もあった。でも練習ではいつも手を抜いていて、ずる休みをしていたのは誰もが知っていることだった。それよりもこのチームの精神的支柱はY君だった。

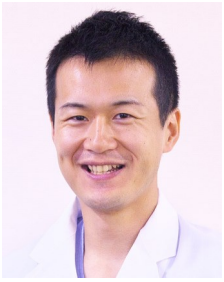
Y君のために私たちは走ったし、身体を張ってきた。考えが頭の中を巡って混乱しているうちに、ミーティングは終わった。私はY君のために何もしてあげられなかった。

私たちは優勝した。F先輩はトライをあげて活躍した。私は心の底から喜びを感じることができなかった。試合では味方の選手と接触して、鼻骨を骨折し、鼻血が止まらなかった。病院で整復後、大量の綿花が両方の鼻に詰められ、熱を出して寝ていた。両方の鼻に詰め物をされて、熱がでると咽頭もやられるので、呼吸が苦しくて、物が食べられない。しかしそれ以上にむなしくやる方ない気持ちが生活を支配して、食べる気力が失せていた。マネージャーが来て、おにぎりやお菓子を置いていってくれるけど、手にする気持ちになれない。夜Y君が突然訪ねてきた。『鼻が折れたら、息が苦しゅうてメシも喰えんじゃろう。一緒にどん兵衛食べよう』。健常者には理解できない病者の痛み。それを知るY君のぶっきらぼーな優しさは生来彼が背負ってきた足枷の重さでもあった。二人で食べる一杯のカップ麺のおいしさが心に滲みた。『元気をだしんさい。村田君のことは俺が一番よ～わかっちょるけ～』。鬱積していた思いもあって、私は思わず胸が一杯になった。『Y君ごめん俺は･･･』。私は思わず絶句し、滂沱（ぼうだ）の涙と激しい嗚咽をいつまでも止めることができなかった。そして数年後にY君は亡くなった。最後まで笑顔だった。

今でも夢に見る、あの日のミーティング。『俺たちはYを守りたい一心でラグビーに取り組んできたと思っていました。でも今考えるとそれは違ったのです。命を削りながら練習をしている彼の姿を見て、俺たちこそが彼に導かれていったのです。彼の気性の激しさこそ、俺たちのファイティングスピリットの源です。彼は絶対負けません。最後まで絶対あきらめません。彼がいてこそ、俺たちは勝てるのです』と何故言えなかった。40年近く経とうとしているのに、今でも枕が濡れることがある。

縁あって、10年間はちや整形でお世話になりました。故あって、私は安芸の国広島に帰ることになりました。この10年間の多くの出合いと出来事が私の人生を更なる高み･深みに導いてくれると信じています。来広の際は御一報ください。歓待します。『サヨナラ』

さよならインタビュー！！　はちや整形外科病院 整形外科　近藤（こんどう） 幹大（みきひろ） 先生



Q人生のモットーはありますか？
一日一ミリは成長したいといつも思っています。成長が少ないと感じたときは一日一ミリ分を本で勉強してます（笑）。

Qはちやのはじめての印象は？
名古屋で歴史がとてもある病院！患者さまに評判が行き届いていて、いい流れがうまくできあがっている病院だと思います。

Qはちやでの3年間で、うれしかったことは？
たくさんありました！ヘルニアの手術をした女性が、手術前、痛くて痛くてたまらなかったのに、手術後麻酔から覚めたら、痛みがないと泣いているところを見たとき。うれしくて自分もこっそり泣きました。

Q今、どんなことを感じてますか。率直な気持ちを教えてください。
10年前、浪人時代に千種の某王手予備校に下宿しており、今そこから徒歩3分のところに住んでいるので、めぐりあわせというか、縁というのはあるのだなあとしみじみ感じています。

Qはちやでの心残りは？
ありません！
（ないようにやってきたつもりです）

Qこれからの目標を教えてください。
中学生の時に、医師になりたいとはじめて思ったんですね。自分が患者さまになったときに、この人に診てもらいたいと思える医師になるようこれからも精進するのみですが、これは果てしなく遠い目標だと思ってます。あと、プライベートでは一生死ぬまでフルマラソンに出場したいですね。

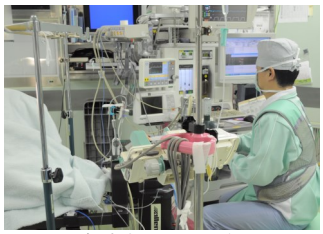
Q最後にひとことお願いします！
「ありがとう」

4月からは三重に帰り、
地元に恩返ししたいと近藤先生。
村田先生は故郷の広島に帰られ
第二の人生を歩まれるそうです。
今後のご活躍をお祈りしています。
本当にお疲れさまでした。

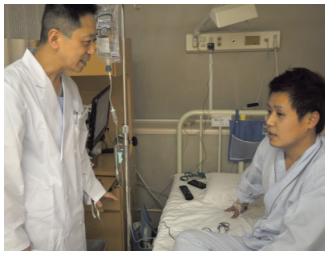
部署紹介

麻酔科をご紹介いたします！

みなさまこんにちは、今回は当院の麻酔科をご紹介いたします。みなさまは麻酔科をご存じでしょうか。普段麻酔科を受診することはあまりありませんので、なじみがうすいかもしれません。麻酔科は手術の際、患者さまに麻酔を行うことが主な仕事です。当院の麻酔科は部長の原田以下、伊藤、鳥居（金曜日）の3名が担当しています。全員が厚生労働省の認定資格である「麻酔標榜医」、日本麻酔科学会の認定資格である「麻酔専門医」を持っており、月曜日から金曜日まで1日平均6件の全身麻酔を行なっています。2013年に麻酔科が担当した症例は1136件でした。



麻酔中の原田医師



術前訪問中の伊藤医師

次に麻酔について簡単に説明いたします。「麻酔」とは痛みをとることです。その方法として①局所麻酔　②伝達麻酔　③全身麻酔などの方法があり、またそれらを組み合わせて行なうこともあります。局所麻酔は意識消失を伴わずに、手術部位に直接麻酔薬を注射する方法です。伝達麻酔は局所麻酔よりも広い範囲の手・足の手術や下腹部の手術に行なわれます。全身麻酔は患者さまに眠っていただくことで痛みを感じなくする方法で大きな手術や長時間の手術で行なわれます。全身麻酔には麻酔用のガスを吸入していただく吸入麻酔と点滴で麻酔薬を流す静脈麻酔があり、また全身麻酔中は人工呼吸器により肺の中に直接酸素を送ります。麻酔科医師は主に全身麻酔と伝達麻酔を担当します。

手術中は血圧、脈拍、心電図、血中酸素濃度や体温、尿量、出血量などさまざまな状態を常に監視し麻酔薬や点滴の量、人工呼吸器などの調節を行い患者さまの状態を安定させるとともに手術が行ないやすい環境を整えています。

手術に際し不安をいだかれる方も多いと思いますが、当院では麻酔の専門医師が患者さまの年齢や性別、健康状態に合わせて最適な麻酔方法を選択し、安全に手術を受けていただけるよう、たえず全身状態を見守りながら麻酔を行なっていますので安心してお受けください。

原田医師（左）と伊藤医師（右）

院内勉強会

医療安全講習会が開催されました

職員を対象とした医療安全講習会「5Sから始める安全管理」が開催されました。
医療機器メーカーにて安全管理に携わる外部講師の方に、エラーが起こるしくみとそれを防ぐための5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の大切さについてお話をいただきました。実際に起こるミスにはわずかな勘違いや注意漏れから生じることが多く、それが重大な事故につながる可能性もあります。それを防ぐためには業務を可視化すること、清潔な職場を保つことと、それらを習慣づけることが大切であること、また最近話題になっているもうひとつのS=接遇の重要さについても学びました。病院は患者さまに使用する数多くの薬品や医療機器、それらの取扱説明書や報告書、記録類など多くの物品・書類を扱うところです。また、診療や手術を行うためには患者さまをはじめ当院に関わる方にホスピタリティを持って接することは必要不可欠です。今回の講演を生かし、事故を起こさず、ご来院の方にとって温かみのある医療現場にするために、職員一同より一層努力していきたいと思います。

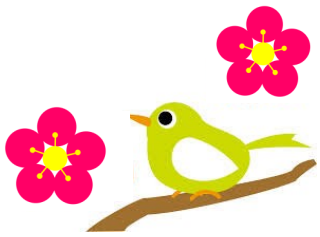
はちや 今昔物語 VOL.2

おもいでぽろぽろ

はちやに関わるみなさまより
大切な昔のお写真を
おあずかりしました。

昔と今の写真を
それぞれつなげてみましょう！

みなさんは
わかりましたか？？



昔

1

29歳

茨城県水戸市の病院に勤めていました。趣味は釣り。いろんな魚を釣りました。この写真は、地元三重から尋ねてきた父を連れて小旅行をしたときのものです。ちょっとした親孝行ができました。

2

1歳4ヶ月

ちょっと照れくさいですが子供の時の写真を紹介します。愛知県岡崎市能見町のお祭りに連れていってもらったときに撮ってもらいました。母親曰く、はっぴとハチマキを着せてもらうとよく笑っていたそうです。

3

17歳

三重県伊賀上野にある祖母の家に下宿していました。当時の夢は一人前の医者になることと女性にもてること。単純な男なんです（笑）当時祖母が作ってくれたすき焼きは本当に美味しかったです。家族に感謝ですね。

4

35歳

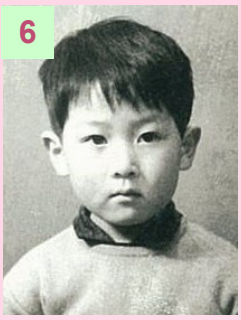
大阪府高槻市の病院に勤めていた頃の写真です。草ラグビーチームの一員として毎週、地元の仲間と一緒に汗を流していました。ちなみに大阪府で3位に入賞したことがあるんですよ。練習後は、必ず近所の中華料理屋さんへ出向き、仲間と一緒にお酒を飲んでいましたね。ああ懐かしい。

5

21歳

青春真っ盛りの大学3年生。BOØWYやDEAD OR ALIVEといったロックを大音量で鳴らし、車で走り回っていました。大学時代は帯太鼓部に所属。両手に豆が20個できるくらい練習しました。写真は夏合宿のときのものです。

6



8歳

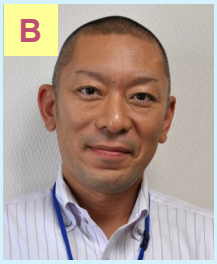
活発な毎日を過ごしていました。ロケットこざるに夢中になっていたことをよく覚えています。当時はよく大曽根の親戚宅へ遊びに行ったものです。
姉と一緒に喧嘩をしていたことも今となってはいい思い出です。

今

A

財務部 部長
高岡（たかおか） 謙次（けんじ） さん

B

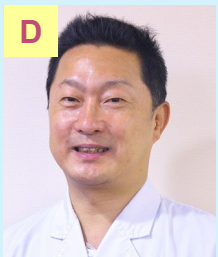


診療情報部 部長
伴（ばん） 直樹（なおき） さん

C

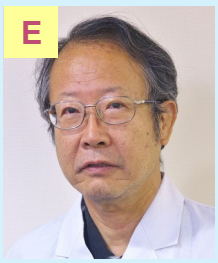
整形外科 レーザー外来
米澤（よねざわ） 卓実（たくみ） 先生

D



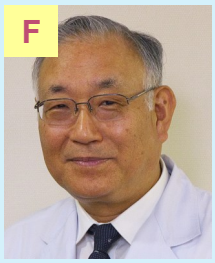
麻酔科 部長
原田（はらだ） 知和（ともかず） 先生

E



整形外科 顧問
安藤（あんどう） 謙一（けんいち） 先生

F



泌尿器科 名古屋前立腺センター
温熱療法研究所 所長
上田（うえだ） 公介（こうすけ） 先生

回答は編集後記の下にあります。お楽しみに！

クリニック閉院から次なる展開へ

はちやリハビリテーションクリニック　大塚（おおつか）　幸一（こういち）　統括部長

この4月に施行される診療報酬改定により、事業継続が困難であると判断し、3月をもって「はちやリハビリテーションクリニック」での外来診療を閉じることとなりました。14年にわたり、お世話いただいた多くの皆さまに心よりお礼を申し上げますとともに、今回のクリニック閉鎖でご迷惑をおかけすることとなりました方々に深くお詫び申し上げます。

有為転変は世の習い、諸行無常・・・。時代変遷とともに物事が移りゆくことは昔も今も変わりなく。14年前、病院機能の役割を明確にするため、通院リハビリを目的対象としたクリニックを新規事業として開設。あわせて、超高齢化時代に対応すべく介護保険事業としてのデイケアセンターを併設。はちや整形外科病院は手術や入院を主たる目的とした急性期医療に総力を結集させることになりました。

わが国、日本が世界に誇る長寿国であることは誰もが知るところですが、その反面で少子化という社会事象も特筆すべき時代となっています。日本社会を支える若人たちの数が減少することは、社会の行く末を揺るがす大きな問題です。今この投稿をお読みいただいているみなさんお一人お一人、年齢や性別はもちろん病名や障がいの程度、家庭や社会での役割立場など、おかれている状況は違うものでしょう。役割立場は時の流れとともに変遷し、新たな目標や使命・責任が問われてきます。病院においても社会動向とともに変遷しています。当法人の母体である「はちや整形外科病院」は高度先進医療技術の提供を実現するべく、最高水準の組織構築を目標に掲げ職員一同が日々尽力しています。この度、閉鎖することになりましたクリニックにおいてもしかりです。今までのような医療保険制度の枠内ではまかなうことのできない社会動向（超高齢少子化）に、適応する新たな事業創成が求められています。介護認定（要介護～要支援）を受けてみえる方は、ケアマネージャーとの手続きを介してデイケアやデイサービス、もしくは訪問リハビリへの転換がかなえられます。介護認定の対象とならない方々は、他病医院への移行、各自治体やスポーツセンター、コミュニティセンターで企画される健康保険福祉事業、会員制スポーツクラブをご利用いただくか、今までクリニックで実践されてきた運動を自己管理の下で行う方法のいずれかの選択となります。この内容をクリニックにみえる方々へお伝えしたときに、「そのような場所で行えないリハビリだからこそ、ここへ通ってきた」との多くの声を耳にすることとなりました。「はちや」の理念である「夢と希望と健康のある明日のために、よりよいサービスを提供することが私たちの使命」を全うすべく、私に今何が行えるのか、はちやで何が行えるのか、新たな事業創成を考えさせられています。

「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。ゆえに夢なき者に成功なし（吉田松陰）」。夢を抱くことこそが、物事をなしえる最初の一歩。初めから無理と思って何もしなければ、何も始まらない。皆さんが元気につどえる拠点とならんことを夢に思い描き、クリニックは4月より「はちやデイサービスセンター」としてあらたな一歩を展開していきます。今後とも変わりなきご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

クリニックが千種警察署より表彰されました

さる1月10日（金）、千種警察署から、はちやリハビリテーションクリニックの日頃の地域貢献に対してご評価をいただき、代表して村田副院長が贈呈式に出席をいたしました。このような機会をいただけましたのも、今までクリニックを支えてくださいました患者さまや地域のみなさまのおかげです。長年にわたるご支援、本当にありがとうございました。

引き続き、はちやデイサービスセンターをよろしくお願い申し上げます。

はちや食堂より

新メニュー募集のお知らせです

みなさんこんにちは！
いつもご利用いただきありがとうございます。

はちや食堂では、みなさんが食べてみたいと思うメニューを随時募集しています。メモでも口頭でも構いませんのでお気軽にご相談ください。

今後も引き続き、美味しく、安全なお食事を提供してまいりますのでよろしくお願いいたします！！

栄養管理士　坂元さん　　内藤さん

※食堂の利用につきましては、ご入院の患者さまと職員のみとなります。
外来患者さまはご利用いただけませんのでご了承ください。

編集後記

感動しました！ソチ五輪。たくさんの感動がありました。なかでも私的には浅田真央選手。フリーのスケーティングを見て、自然と胸が熱くなり、思わず人前で涙を流してしまいました（汗）。おそらく大人になってからは初めてでしょう。でも、見られてもいいやって思えました。それくらいあの4分間には感動しました。呆然とするくらいどん底まで落ちて、次の瞬間には自分の持てる最高のパフォーマンスをして魅せる。ドラマチックですねえ・・・。本当に素晴らしかったです。

さて、私たちは医療人です。身体の調子が悪い患者さまが毎日来院されます。気分的に落ち込んでいる方を励ますのも私たちの務めです。残念ながら3月末をもって退職される村田先生や近藤先生に元気づけられたっていう患者さんも多くみえます。当院で過ごした時間の中でもきっとたくさんのドラマがあったかと思います。患者さまのことを誰よりも考える人情深い村田先生や近藤先生。新天地でも最高のドラマを築いていただけることと願っております。名古屋より影ながら応援させていただきます。長い間ありがとうございました。（伴）

はちや今昔物語の答えあわせ　1-E 2-D 3-F 4-C 5-B 6-A